

Design Thinking

デザイン思考ワークショップ 技術科特別ワークショップ



イノベーションに特別な才能はいらない

デザイン思考を学ぶことで誰もが新しいアイデアを生み出すことができる

2016年6月11日、CURIO SCHOOLの若松氏が講師として来校いただき、デザイン思考のワークショップをしていただきました。スタンフォード大のd-schoolにて発展してきたデザイン思考は、製品開発などビジネス界のみならず学校現場、地域コミュニティでも新しい革新的なアイデアを生み出すために応用されています。技術の授業では根幹に位置づく思考方法として取り入れています、専門家によるワー

1

EMPATHIZE

顧客、相手にする人の状況や感情、問題の所在を深く把握します

2

DEFINE

把握した問題のどの要素にアプローチすればいいのか洞察します。

3

IDEATE

チームでアイデアを出していきます。良い悪いの評価は後回し。



curio school
好奇心と創造力を磨く学習塾として有名



Stanford university

アメリカCA西海岸に本部を置く私立大学。



d-school

機械工学、建築、ビジネスなど分野の違う者が集まり立場や学問の垣根を超えてデザイン思考を学び、新しいイノベーションにアプローチしている。

クショプは一味も二味も違いました。

スマホを再定義する

チームでアイデアの化学反応を起こす

「自分だけで考えるんじゃなくて一緒に考えたりするのは楽しかったです」「事柄の原因を把握していなかったからアイデアがなかなか出なかったけど、問題を理解することによってアイデアが出せることが理解できました」「問題に対するアイデアをだすのにこれだけの手順があり、まわりの人達といっしょにアイデアをだしていくといいんだということをして良かったです」「インタビューする前と後とではアイデアの形が違うことを知り、インタビューの大切さを知ることができました」「相手が言ってないことを考えるっていうのが難しかったけど、考えることがすごく楽しかったです」

“世界を変える” Mono Coto Innovation 2016

DESIGN LABO（京都工芸繊維大学）にて、大学・企業が中高生のアイデアを実現するためにサポートするイベントが開催される。誰でも



参加可能。友達と都合をつけてぜひ参加してほしい。そしてスタンフォード大学へ行こう。問い合わせは、沼田まで。

デザイン思考の5つのステップ

(empathize) 共感する。顧客や相手の状況、直面している問題を把握します。(define)問題を再定義する。直面している課題や問題とは何かを再定義しながら、どの部分にアプローチしていけばいいのかを探ります。(ideate)アイデアをだす。でてくるアイデアを否定せず、その評価は後にして、新しく思いつくことをつぎから次へと出していきます。(prototype)試作する。手を動かし作りながら考える。(test)それを試します。これらのステップは直線的に駆け上がることもあれば、行きつ戻りつを繰り返していきます。

